

# 遇

～ぐう～

Encounter magazine "Guu"



『歎異抄』蓮如本(蓮如上人直筆)・西本願寺蔵

# 9月

September 2016

No. 11

かみこ くじゅうねん  
紙衣の九十年

親鸞聖人はおよそ八百年ほど前、京都に誕生され、九十歳でお亡くなりになりました。

その人生を通してお伝え下さったお念仏の教えは今もなお、人々の心に響き、生きる勇気と力を与え続けています。悪人正機説や肉食妻帯されたということで有名ですが、一体親鸞聖人とはどのような方だったのでしょうか。

ここでは親鸞聖人のご人生について共に触れていきたいと思えます。



●善鸞義絶

聖人が京都に帰られて後、晩年に及んで、権力者による弾圧や日蓮上人の念仏批判などが相次ぎ、そのために関東の御同行の間に信仰上の動揺が起こってまいります。

関東からは、多くの方々が代わる代わる面会を求めて、あるいは手紙を携えて来られました。聖人は、その人々に対して温かく、そして時には厳しく応対され、はたまた、ご返事をもって惑いを正されました。現在伝わる四十三通のお手紙は、その一部です。

そして同時に、息男善鸞さまを関東に派遣して人々の力添えとされたのでした。

しかし、使命を担った善鸞さまは関東教団を統一しようとして、却って有力な門弟と対立するようなことになってしまいました。そのため、善鸞さまは聖人の子という立場を強く押し出し、あるいは権力者たちと

妥協し、または、それを利用しようとさえしました。

そうした善鸞さまの行動と、そのために起こった関東教団の混乱をお知りになった聖人は、念仏の僧伽が崩れていくことを悲しみ、敢えて善鸞さまを義絶されたのでした。

しかし、義絶によって、親であるという事実まで消そうとされたのでありません。却って、義絶しなければならぬ子を持った親として、善鸞さまの犯さねばならなかった罪と、その罪の大きさを、重く深く荷負われてゆかれたのでした。

この善鸞事件などに見られる幾多の異議や、鎌倉幕府の弾圧などによって動揺を続けていた関東の御同行たちは、聖人の

お言葉を力として、いよいよ本願念仏の道を受け継いでゆきました。





みずぐは自分と同根の「いのち」を  
鱈に感じ取っている故に、このよう  
な詩が生まれるのであろう。

「お魚」

海の魚はかわいそう。

お米は人につくられる、

牛は牧場でかわれてる、

こいもお池でふをもらう。

けれども海のお魚は

なんにも世話にならないし

いたずら一つしないのに

こうしてわたしに食べられる

ほんとに魚はかわいそう

『金子みずぐ全集一』

食膳に供えられた一品の魚料理、ど  
うして無造作に食い散らかすことな  
どできよう。

人間も悲しいことに、他のいのち  
を奪わなければ生きてはいけない。  
他のいのちを頂いて生かさされている  
いのちである。しかし食するものも、  
食されるものも、その「いのち」に

軽重はない。

釈尊の本生物語が集録されてある

「ジャータカ」(本生譚)に、慈悲

深いことで世に知られた尸毘王とい

王さまの話がある。慈悲深い尸毘王

の評判を耳にした帝釈天は、毘首羯

磨天と計り尸毘王の慈悲心に偽りは

ないか試すことにし、帝釈天は鷹に、

毘首羯磨天は鳩に変化し、鳩が鷹に

追われる状態で尸毘王の前に表れ、

鳩は尸毘王の懐に逃げ込む。尸毘王

の懐に逃げ込んだ鳩を追って来た鷹

は尸毘王に「貴方の懐に逃げ込んだ

鳩は私が見つけた獲物だ。私に返し

てくれ」と要求する。すると尸毘王

は「私に助けを求めているものをお

前に渡すわけにはいかぬ」と断る。

すると鷹は「王は慈悲深いと聞いて

いたが、何と無慈悲な人だ。その鳩

を食さなければ私は死んでしまうの

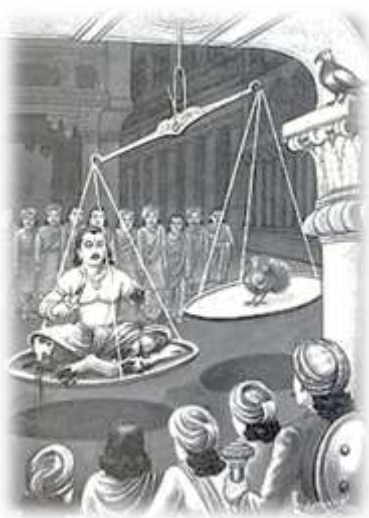
だ」と訴える。その鷹の訴えにもつ

ともだと思われた尸毘王は「それで

は替りの食物を与えよう。何でも欲

しいものを云いなさい」と鷹に促す

と「私は血の滴る生肉しか食さない」  
と鷹は云う。それを聞かれた尸毘王  
は腰に下げていた短剣を自らの右太  
股に突き刺し、その肉を切り取って  
鷹に与えたが、鷹は「これでは足り  
ない。鳩と同等の肉でなければ」と  
いうことで、尸毘王は遂に全身の肉  
を切り与え、息絶えてしまう。その  
時、鷹に変化していた帝釈天は、元  
の相に戻り通力を以って尸毘王を蘇  
らせ、「貴方は後に仏に成られるこの  
上ない徳高きお方だ」と深々と礼拝  
して、その場を去っていかれたとい  
うことである。この物語で説かれて  
いるのは、尸毘王と鳩の「いのち」  
に軽重はなく、平等の尊い「いのち」  
なのだということである。



ジャータカ (本生譚)  
尸毘王物語

禽獸草木きんじゅうそうもくに限らず、あらゆるものに同根の「いのち」を感得していくのが仏教である。

明治の始め、京都嵯峨天龍寺に滴水宜牧という高僧がいた。九歳で出家し、備前岡山の曹源寺に入寺し、儀山善来のもとで修行に励んだ。或る日、厳しい暑さの中、師儀山の御伴をし、托鉢に出て寺へ戻った折、井戸の水を桶に汲み、師の御脚を洗われ汚れた桶の水を無造作に境内に捨てたのである。それを見た師の儀山は「愚者」と大声で滴水を叱った。「お前にはこの暑さの中、境内の草木が一滴の水を欲しがっている声が聞こえんのか。一滴の水にも「いのち」がある。それを無下にするのは水の「いのち」を殺すことだ。仏法はあらゆるものの「いのち」を活かしていく道なのだ。そのようなことに気付かんのでは、何年修行しても一人前の僧にはなれんぞ」と諭した。儀山にそう諭された滴水は「一滴の水にも尊い「いのち」が宿っている」

というこの教えを生涯忘れまじと、自らの名を「滴水」と改められたという。



滴水宜牧禅師

仏法は禽獸草木はおろか、あらゆるものに掛け替えない「いのち」を感得する道である。生きとし生けるものは、他の「いのち」を戴いて生かされている。その「いのち」の犠牲を無下に廃棄することは、人間として許されることではない。暖衣飽食の時代などと表現されることがあるが、日本の食料自給率は四〇パーセント足らずと聞く。半分以上の食糧を輸入で助けられている国が、年間の食品廃棄量が六四二万トンとすること。どれほどの量か想像もつかないほどだが、十トントラックに換

算すると六十四万二千台分となる。これほどの「いのち」が無下に捨てられているということだ。このようなことが何時迄も許されよう筈もない。

願わくは松本市が取り組んでいるところの「さんまる・いちまる」運動が全国に伝播され、食物ばかりでなく、あらゆるものが無下にされることのない社会が開かれていくことを念じて止まない。

合掌

成田 宣信（金相寺住職）



京都嵯峨・天龍寺

# 御同朋の声

【つらこや開設のぐ挨拶】

佐藤 匠 氏

私たちは、本年の五月に六名の有志のメンバーで、創志館く相模原てらこやくという団体を立ち上げました。その後、多くの仲間の賛同を得て、六月に第一回のてらこやを開催することができました。

この団体の立ち上げメンバーであり、組織の中核として活躍して頂いている成田宣明副住職とは、昨年公益社団法人相模原青年会議所でお会いしました。子どもたちに関わることをなにか行いたいと考えていた私にとって、副住職との出会いがあり、そして、副住職が以前より行っている青年会、子ども会の地域貢献活動

と理念が共通し、現在、金相寺さんを中心にして活動させて頂いております。



六月に行われた記念すべき第一回の様子

昨今の世の中は、いじめ、不登校、引きこもり、地域コミュニティの衰退による世代間交流の減少など、私たちにとって大切な宝である子ども達を取り巻く環境は決して良いものとは言えません。責任世代である私たちが先頭に立ち、「真の共育」として、全ての世代に、力強い生き方、明るく確かな真に安心して歩んでいける心を育むことを目的として、私

たちの住み暮らす地域を豊かな地域にしてまいりたいと考えております。

私たちの活動は、地域の歴史・伝統・自然を活かしたさまざまな活動をする事により、そこで憧れとなるお兄さんやお姉さん、尊敬できるおじちゃん、おばあちゃんとの出会い、その体験、出会いを通して子どもたちが、共に汗を流し、学び・気づき・感動すること、自ら主体的に生きる力、地域への愛着を身に付けてもらうことを目的としています。

また、子どもたちの成長は、私たちの成長を促してくれます。大人も若者も子どもも共に育つ、そのような魅力ある人がたくさん存在する地域を創ってまいりたいと思っております。今後、私たちは金相寺さんを中心にさまざまな活動を行ってまいります。今後とも宜しくお願致します。



どうぼうかい

# 同朋会

歎異抄勉強会

## 【現代語訳】

《序》

私が思うに、親鸞聖人がいらっ  
しやったころといまとをくらべて  
みると、聖人が直接教えてくださ  
った信心と異なることがあるの  
は、まことに悲しいことである。  
それによって、教えを学び受け継  
ぐ者たちに、疑いや惑いが起こり  
つつある。よき師に出遇うことが  
なければ、本願念仏の教えには入  
ることができないであろう。自分  
の勝手な考えで、他力の教えを決  
して見だしてはならない。そこで、  
亡き聖人からお聞きして忘れられ  
ないお話の要点を書き起こしてお  
こう。これは、ひとえに同じ志の  
求道者が陥りやすい不明な点を除  
くためである。

人間が宗教に近づく多くの場合、  
誤解で近づきます。しかし、誤解を  
恐れることはありません。誤解があ  
ればこそ、誤解を解いてくれる教え  
に出遇えます。むしろ誤解がなけれ  
ば、理解への手がかりはなくなりま  
す。親鸞は関東の門弟たちの混乱ぶ  
りをみて、「ひとびとの信心まこと  
ならぬことのあらわれてさうろう。  
よきことにてさうろう」（『親鸞聖人  
御消息集』）と述べています。皆さん  
が混乱しているのは信心が本当でな  
いことの表れだから、むしろそのこ  
とがあぶり出されたのはよいことだ  
と言っています。この「よきことに  
てさうろう」という受け止めこそ、  
『歎異抄』に流れている「歎異のこ  
ころ」ではないでしょうか。

（『なぜ？からはじまる歎異抄』

本文より抜粋）

所感

五年間に渡って輪読・学習してま  
いりました『正信偈の教え』が終わ  
り、参加者同士で話し合った結果、  
今回から『歎異抄』についての学び  
を深めていこうということで、私の  
恩師でもあります武田定光師の『な  
ぜ？からはじまる歎異抄』（東本願寺  
出版）を輪読していくこととなりま  
した。

この書は、はつきりとした答えを  
私たちに与えるものではなく、私た  
ちに「なぜ？」を与える書となつて  
います。著者の武田師はこの「なぜ？」  
こそが、二千五百年のときを経て、  
今ここの私にまで届けられている仏  
教をこの身に受けるための大切な方  
法だとおっしゃいます。

この書を通して、親鸞聖人、唯円  
から届けられた大切な教えを共に聞  
いてまいりたいと思います。皆さん  
のご参加お待ちしております。

釋宣明

## いざという時困らない！ 葬儀社選びのチェックポイント

不幸がおとずれた際、いざというときにお世話になるのが葬儀社です。大切な方とのお別れを悔いなく終えるためには依頼する葬儀社選びが大切になってきます。葬儀社はどこも一緒ではないの！？

今回は信頼できる葬儀社の見分け方のご紹介です。

セレモニー真富が  
教える



金相寺世話人  
山崎富美雄氏

### 葬儀社のココを見よう！

ひとくちに葬儀社といっても、価格やサービス等は違ってきてきます。失敗しない葬儀社を選ぶためのチェックポイントとは！

□葬儀費用をしっかりと説明してくれる

ある調査によると葬儀にかかる費用の全国平均は一九〇万円前後という結果が出ています。高額なお買い物になり得る葬儀費用の内訳が不明瞭の場合や、説明を求めても曖昧な答えをされる葬儀社には注意が必要です。

□葬儀社の主導になっていないか？

家族の目線で対応してくれているか。当たり前だと思われるかもしれませんが、非常に重要なポイントです。葬儀に普通はありませんので、家族の気持ちを汲んでどのようなお葬式にしたいか耳を傾けてくれ、同じ気持ちで一緒になって提案してくれる葬儀社を選びましょう。

金相寺さんでは、葬儀に関する勉強会を年数回行っており、ぜひ活用下さい。

### 事前相談を活用しましょう。

「お葬式の話をするとは縁起でもない」なんて昔の話？考え方は人それぞれですが、近年は事前に葬儀社へ相談することに抵抗のない方も増えてきています。しっかりと見極める為には、複数社の事前相談を受けて比較検討をしてみることが必要です。また、近年は葬儀社独自の「エンディングノート」を用意していることが多くありますので、日記の要領で気軽に書いてみるのも良いかもしれませんね。何度も書き直しは出来ませんので思いついた段階で書いてみて、また新しく思いついたら書きなおしてみてください。

こちらも金相寺さんで、エンディングノートセミナーを企画しておりますのでお問い合わせ下さい。



副住職の

# 日々の出遇い



## ●夏の子ども会「報告」

当寺、夏の恒例行事「金ピカキッズ・夏の子ども会」を八月八日（月）に開催いたしました。

今年は、私が事務局スタッフとして携わらせていただいております「創志館そうしかん」相模原てらこやこや」にも協力してもらい、共催で開催させていただきました（「創志館」の詳細は当寺報五ページの「御同朋の声」を御覧ください。代表がご寄稿くださっています）。

また、私の友人でプロの音楽家として音楽イベントの企画・運営や音楽教室を開いている齋藤麻里亜さんをお招きして、生演奏にのせて絵本『ちーちゃんのかげおくり』の読み聞かせをしていただきました。

ここ数年、夏の子ども会では、競争と平和について共に考えてきました。大切なことは、一人ひとりの尊いいのちが失われたという事実と、

その人を思い、その死を嘆く

人がいた、そして今もいるということに

思いを馳せることではないでしょうか。

それが欠けていては、いく

ら平和と訴えてみても、どこか他人事になってしまっているのではないかと。そんなことを教えていただいた貴重な時間となりました。

この他、流しそうめんやかき氷など賑やかな会となりました。詳細はホームページを御覧ください。

次回の子ども会は十一月二十日に、今回同様、創志館そうしかん相模原てらこやこやと共催で親鸞聖人御命日の集い「報恩講」を開催予定です。是非有縁の方々お誘いあわせの上、お気軽にご参加ください。



## 今後の予定

### 法要

九月二十二日 秋彼岸会  
十一月十三日 報恩講

### 勉強会など

十月一日 午後二時

同朋会 〈歎異抄学習会〉

(輪読・座談会)

※ 偶数月(二、四、六・八・十・十二月)  
の第一土曜日に開催予定。

十一月二十日

秋の子ども会

(子ども会・青年会報恩講)

※ 詳細はホームページをご覧下さい

毎月一回 仏教青年会

※ 毎月の開催日等、詳細はホームページを  
ご確認いただくか電話・メールにてお問  
合せ下さい

予定は都合により変更する場合がございます。  
詳細は随時ホームページをご確認いた

### 編集者雑感

先日、高校時代からの親友の息子さんが、ある高校野球強豪校に入学し、地区予選ではありますが横浜高校と熱戦を繰り広げていました。ちよつと前まで高校球児が年下だなんて…と友人たちと語っていた気がしますが、気づけば親の世代になってしまった四十の私。「昔の人々に比べると現代人は幼稚になった」とある先生がおっしゃっていたのを思い出します。

そこで、その時代によって人々がどう映っていたのかをよく反映しているのが、アニメのキャラクターだと聞いたことがあったので、少し調べてみると…シヨック…。同級生は、なんと「ちびまる子ちゃん」のお父さん。バカボンのパパは四十一歳、「ドラえもん」のび太のお父さんは三十六歳、「巨人の星」の星一徹については、なんと三十三歳…。

シヨックを受けるところがちよつと違う気もしますが、改めて、年齢なりにもっとしつかりとしなければいけないなあと痛感する今日このごろです…。

『遇くぐう』第十一号  
発行 浄土真宗 霊苔山

副住職 金相寺  
成田 宣明

〒252-0328

神奈川県相模原市南区麻溝台726-1

TEL 042-778-2879 FAX 042-711-8257

e-mail info@konsouji.com

URL http://www.konsouji.com/

発行日 二〇一六(仏歴二五五九年)年九月一日